

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課： 有料道路課

担当課長名： 上野 進一郎

事業名	第二東海自動車道 ごてんば ながいずみぬまづ (御殿場JCT～長泉沼津)		事業区分	高速自動車国道	事業主体	中日本高速道路(株)
起終点	自) 静岡県御殿場市駒門 ごてんば こまかど すんとう ながいずみ もとながくぼ 至) 静岡県駿東郡長泉町元長窪			延長	1.4 km	
事業概要	第二東海自動車道は第二名神高速道路と一体となって、三大都市圏を相互に結び、人の交流と物流を支える大動脈として、日本経済を牽引するとともに、東名・名神高速道路の代替機能を果たす上で不可欠な路線である					
H9年度事業化	H9年度都市計画決定		H11年度用地着手		H10年度工事着手	
全体事業費	2,503億円	事業進捗率	約77%	供用済延長	0 km	
計画交通量	42,100台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 4.3 (残事業) 13.8	総費用 (残事業)/(事業全体) 848/2,721億円 事業費： 682/2,555億円 維持管理費： 167/167億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 11,724/11,724億円 走行時間短縮便益： 11,100/11,100億円 走行費用減少便益： 558/558億円 交通事故減少便益： 66/66億円	基準年 平成20年		
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施					
交通量変動	: B/C = 15.3 (交通量 +10%)		B/C = 12.5 (交通量 -10%)			
事業費変動	: B/C = 12.9 (事業費 +10%)		B/C = 15.1 (事業費 -10%)			
事業期間変動	: B/C = 14.4 (事業期間 -1年)		B/C = 13.4 (事業期間 +1年)			
事業の効果等	現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる 当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する 緊急輸送路が通行止めになった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する 他13項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	第二東海自動車道は、慢性的な渋滞状況に陥っている東名高速道路と交通機能を分担することで高速サービスを確保するとともに、地震等による災害発生時には緊急輸送路としての役割を果たす極めて重要な道路であることから静岡県知事を会長とする新東名高速道路建設促進協議会より整備促進の要望（平成20年11月12日）を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	東名高速道路の利用交通量が年々増加し、交通容量を上回っている。東海地震の発生も想定される。東名高速道路の道路構造物の老朽化が進んでいる。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	現在、工事中。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	今後も引き続き工事の推進を図る予定。					
施設の構造や工法の変更等	新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト削減を図っていく。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図	 <div data-bbox="1181 1680 1468 1881" style="float: right; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>凡例</p> <p>高速自動車国道</p> <p>供用中</p> <p>事業中</p> <p>整備計画区間</p> <p>基本計画区間線</p> <p>予定路線</p> <p>高速自動車国道に並行する一般国道自動車専用道路</p> <p>供用中</p> <p>事業中</p> </div> <p style="text-align: center;">対象区間</p> <p style="text-align: right;">注:本資料のIC名については全て仮称</p>					

□ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの